

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIYOKO REHABたけくま 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画を作りるにあたり、モニタリングと専門的な評価を行い、職員間で検討し共有しています。面談では、保護者様、お子様からの聞き取りを丁寧に行い意向を取り入れながら原案を作り、その内容を元に職員でケース会議をして、保護者様の面談でご意見をいただき計画を作成しています。	個別と集団でそれぞれ専門的な支援を展開しています。専門的支援実施計画をもとに支援を展開して、その効果が見える評価が提示できるように提示しています。また、活動内容や日々の様子についてはブログに載せて見えるようにしています。連絡もシステムを活用して個別に活動の様子を伝達できるようにしています。	専門的な支援をさらに拡充し、お子様の個々に応じた発達に対応した支援を展開できるように、楽しみながら学ぶ機会を提供していきます。評価シートやシステムの活用を充実してより良い情報発信と、計画に沿った支援内容が保護者様にも周知できるように具体的な内容報告に努めます。
2	専門職(言語聴覚士・公認心理士・保育士)による個別活動や集団活動が提供しています。療育という視点から、できていることは伸ばして、苦手なところを分析して、専門的な手法で出来る糸口を見つけることができます。定期的に専門職による検討会を開催し職員間での支援の向上に努めております。	保護者様への実績報告と専門職からの助言等を丁寧に行い信頼を構築できる工夫をしています。心理職においても児童と保護者様の間で懸け橋になるような関わりや、関わり方の手法を伝えていくなど意識的に取り組んでいます。	保護者様がお子様の専門的な療育を受けている様子を見学したり、一緒に体験できる機会を多く設けていき、職員にいつでも相談できる環境を行っていきます。

3	活動内容に児童へ楽しく学びながら活動が提供できるように外出の機会を多く取り入れています。施設見学、外食やテイクアウト体験、公園遊びなど、公共施設でのマナーやルールの習得も実際の場面で体験できるように提供しています。	事業所外での活動で安全確保の視点から安全対策と役割を明確にした日案を作り、皆で共有して実行しています。修正があれば都度臨機応変に対応しています。	安全が確保できる活動場所を模索したり、計画を立て振り返りながら安全に活動を続けていきます。
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	社会活動や地位住民や児童クラブ、他の事業との交流について、公共の施設を利用した際や、お散歩、お買い物で社会体験時での関りになり、地域のお祭りや行事への参加が少ないです。	児童クラブや地域住民との情報連携不足があります。	情報を共有したり、地域行事に参加できるように地域との連携を検討していきます。
2	保護者様に施設の設備や、施設内の環境を見ていただく機会が少なかった。	送迎で施設にお迎えの保護者様には施設の様子をご覧いただける機会がありますが、自宅送迎の場合は行事に参加して頂ける保護者様に限られていました。	親子行事の開催の頻度を多くして、施設の設備や室内の様子も保護者様に知っていただけるようにいたします。
3	保護者様と一緒に参加できるイベントの回数が少ない事です。	年間2回程度の親子行事の為認知度が低かったことがあります。	今年度は年4回を目標に開催して、より多くの保護者様に参加して頂ける機会を作ります。